

目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）	
視点1「課題意識の持続」	視点2「達成状況の把握」
学習課題を自分事として考え最後まで学習に取り組むため、児童生徒の必要感や目的意識等が単元を通して持続する授業	児童生徒が、単元で目指す児童生徒の姿（付けるべき資質・能力を身に付けた姿）を明確に共有し、その達成状況について適切な場面と方法で捉え、評価がなされる授業
<p>【現時点での課題（授業者・学習者）】</p> <p>単元の学習内容を身に付けるために、必要感や目的意識をもって学習する。</p> <p>授主体的に学習に参加させるために、学習の目的や必要性を児童に明確に示し、実感を伴った授業を行う。</p>	<p>【現時点での課題（授業者・学習者）】</p> <p>単本時における学習内容を用いて問題を解き、その過程を文章や言葉で表現する。</p> <p>授解いた問題を文章や言葉で表現させることで、思考の整理と学習内容の定着を図る。</p>

4 学年 算数科 単元指導計画		
単元名 垂直、平行と四角形 主教材 ： 四角形の特ちょうを調べよう	日 時	令和4年10月27日6時間目
	対象学級	綾織小 4年1組 10名
	授業者	教諭 佐藤 直
1 単元の目標 (何ができるようになるか)		
〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	「学びに向かう力、人間性等」
直線の位置関係や四角形の構成について理解し、図形についての見方や感覚を豊かにすることができる。	図形についての見方や感覚を豊かにするとともに、数学的表現を適切に活用して図形の構成について考えることができる。	図形の性質を考察した過程を振り返り、そのよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。
2 単元で取り上げる「数学的活動」 (何を通して育成するのか)		
(関連：B(1) 平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形)		
図形を構成する要素である辺の平行や垂直の関係に着目し、平行四辺形、ひし形、台形の性質を見だし、これらの図形の構成の仕方について考える。		
3 単元の評価規準 (何が身に付いたか)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
直線の垂直や平行の関係を理解し、平行な二直線や垂直な二直線をかいている。また、それらを活用して平行四辺形やひし形、台形の特徴について理解している。	辺の位置関係や構成要素に着目して、様々な四角形の性質を見だして表現したり、様々な四角形と対角線の特徴を整理して考え、説明したりしている。	身の回りから2直線の垂直や平行の関係、様々な四角形を見出すことで学習内容を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活に活用しようとしていたりしている。

4 単元のゴール	(どのような力をつけるためにどんなゴールを設定するか)
<p>・平行、垂直といった直線どうしの位置関係から、図形を特徴づけ、平行四辺形、ひし形、台形の性質を見だし、これらの図形の構成の仕方について考える力を育成するために、単元の導入で台形や平行四辺形によって作成された幾何学模様のシートを提示し、本単元の学習を身につけることで提示されたような模様を作成できることを知らせ、「学んだことを使って自分だけの模様を作成する」ことを単元のゴールと設定する。</p>	
5 単元の指導と評価の計画 (全 13 時間)	(単元をどうデザインするか)
別紙 (16・17ページ)	

6 本時の目標
<p>・図形を構成する要素および、それらの位置関係に着目して、図形の構成の仕方を考察し、台形と平行四辺形の特徴を理解する。</p>

7 「本校の視点」 + 「遠野中学校区の視点」による本時の授業改善		(どのように学ぶか)
A 本校の視点 1 「算数的表現力の育成」	B 本校の視点 2 「家庭学習を生かした学習内容の定着」	
<p>・自力解決後にペア学習を取り入れ、仲間分けのしかたを説明し合うことで、平行な直線の組の見付け方や平行な直線の定義・性質について理解を深める。</p>	<p>・授業の振り返り後、プリントで本時の学習内容を確認し、家庭学習で復習させ、定着を図る。</p>	
遠野中学校区の視点 1 「課題意識の持続」	遠野中学校区の視点 2 「達成状況の把握」	
<p>ア 自分が作った四角形や提示された四角形はどのような仲間分けになるか、課題意識をもたせる。 イ 既習の平行な直線の定義・性質を活用して四角形を仲間分けできることを捉えさせる。</p>	<p>ア 適応問題を解き、平行な辺の組数に着目して自分や友達の作った四角形が台形や平行四辺形になっているか説明させ、理解度を把握する。 イ 「平行な辺に着目すると台形や平行四辺形に仲間分けできる」、「正方形や長方形は平行に着目すると平行四辺形とも見られる」という視点で振り返らせることで内容の定着を把握する。</p>	

8 板書計画等	(学びの可視化をどうデザインするか)

9 本時の展開 (7 / 13)		(本時をどうデザインするか)
	学習活動および学習内容	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の学習内容を確認する。 2 問題を把握する。 平行な直線の組の数に着目して、四角形を3つのなかまに分けてみましょう。 3 本時の課題をとらえる。 平行な直線の組の数に着目して、四角形をなかま分けしよう。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に垂直を使って作図した経験をもとに、平行を使っても四角形を作れるか考えさせ、問題を設定する。 第1時で児童が作成した四角形を提示する。 自分たちが作った四角形や提示された四角形はどのような仲間分けになるか、課題意識をもたせる。 ≪①ア≫
展 開 25分	4 見通しをもつ。 <答えの見通し> 平行な直線の組がありそうな図形を選ぶ。 <解決方法の見通し> <ul style="list-style-type: none"> ドット図の点から平行を見付ける。 直線の幅を定規で測る。 5 課題を自力解決する。 <ul style="list-style-type: none"> タブレットを操作し、平行な直線の組を見付け、仲間分けする。 <期待する児童の考え> <ul style="list-style-type: none"> 直線の幅を定規で測り、平行な直線の組を見付ける。 2組の三角定規を使い、平行な直線の組を見付ける。 6 学び合い (1) ペア学習 <ul style="list-style-type: none"> ペアで自分の考え方について説明し合う。 (2) 全体学習 <ul style="list-style-type: none"> 仲間分けのしかたを発表する。 7 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> 本時で学んだことを発表する。 向かい合った辺が、何組平行になっているかによって、台形や平行四辺形という名前がつく。	<ul style="list-style-type: none"> 直感的に平行な直線の組を見付け、自力解決時に確認しやすくする。 既習の平行な直線の定義・性質を活用して四角形を仲間分けできることを捉えさせる。 ≪①イ≫ <ul style="list-style-type: none"> ロイロノートに事前に用意したカードを送り、児童が書いた図形と合わせて四角形の仲間分けを行う。 解決の見通しが立たない児童には、向かい合った辺が平行かどうか、三角定規を使って調べるよう助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ペアで仲間分けのしかたを説明し合うことで、平行な直線の組の見付け方や平行な直線の定義・性質について理解を深める。 ≪A≫ <ul style="list-style-type: none"> 平行な辺の組に同じ色を塗り、発表の仕方を工夫させる。 向かい合った辺が何組平行になっているかによって台形・平行四辺形という名前がついていることをまとめる。
終 末 15分	8 適用問題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 児童の作った四角形はどのような四角形か考え、説明する。 9 学習の振り返りをする。 <期待する児童の反応> <ul style="list-style-type: none"> 向かい合った辺が何組平行になっているかで四角形の名前が変わると分かった 長方形や正方形も向かい合った2組の辺が平行で平行四辺形の仲間だと思った。 ※家庭学習の確認 10 次時の学習の見通しをもつ。	≪思・判・表≫平行な辺の組数に着目して、台形や平行四辺形の特徴について説明している。 (タブレット・発表) <ul style="list-style-type: none"> 適応問題を解き、平行な辺の組数に着目して自分や友達の作った四角形が台形や平行四辺形になっているか説明させ、理解度を把握する。 ≪②ア≫ <ul style="list-style-type: none"> 「平行な辺に着目すると台形や平行四辺形に仲間分けできる」、「正方形や長方形は平行に着目すると平行四辺形とも見られる」という視点で振り返らせる。 ≪②イ≫ <ul style="list-style-type: none"> プリントで本時の内容を復習させる。 ≪B≫ <ul style="list-style-type: none"> 次時は平行四辺形に性質について考える学習であると見通しをもたせる。

